

# おおふな

2026年3月28日 No.73

発行者：森田隼士 編集：情宣部

## JR東労組 大船支部

# 2026春闘・夏季手当、苦渋の決断で妥結の判断を行う！

2026JR 総連春闘で作り出した組織強化と申20号交渉での6点の確認事項に基づき  
職場の努力に報いず、賃金抑制する会社姿勢に立ち向かう中央執行委員会見解

JR東労組は、2026JR総連春闘として「ペアー一律18,000円」の統一要求を掲げ、全組合員とたたかいをつくり出してきた。連帯してたたかいをつくり出して頂いた組合員・社員・ご家族に感謝を申し上げる。

会社は、2月2日付で社長からJR東労組委員長宛に「新賃金・夏季手当について」を突如通知した。その内容は、「基本給を職務能力給へと見直す予定であるが、全社員の職務能力給を1万円以上増額しベースが引き上がること、また他の手当等の平均支給額も大幅に増額となることを踏まえて検討していく考え」と記載されていた。このような通知でペアーを抑制することを前例にしてしまえば会社は通知を出して何でもできてしまう。JR東労組は制度改正による処遇改善を通じたペアーの抑制に反対であることを一貫して団体交渉で主張してきた。

しかし、会社はその姿勢を一切変えることなく、「制度改正で10%引き上がる」「財布は一つ」「賃金カーブは、能力昇給や夏季手当等の一つの手当の一断面でみるのではなく、65歳まで働けば賃金は全社員向上する」として、ペアー平均3,271円(0.92%)、昇給平均3,271円(0.92%)などの早期超低額回答を示した。

また夏季手当も、生活の要素である扶養手当・都市手当を除外し、仕事の要素に特化した役割遂行賃金を算出基礎にしたため、支給額や定期昇給が大幅に減少する組合員・社員がいるにも関わらず、昨年からのたった0.1ヶ月しか上がらない2.9ヶ月だった。さらに、能力昇給額の区分は6月に通知されるため、6月まで昇給額が確定せず「新賃金と夏季手当を同時期議論することにより、計画的な生活設計を立てられるようにする」とした会社回答は理論破綻していると言わざるを得ない。

制度改正での処遇改善による賃金抑制は、職場の努力が報われず、モチベーションの向上も図られず、今後の生活設計や賃金引き上げ、労使交渉への影響を及ぼしかねない。多くの組合員から「制度とペアーは別」「平均1%に届かないのは怒りしかない」「初任給の引き上げの対象となる若手と管理者しか優遇されない」「30~40代が一番損をする」「役割遂行賃金になると期末手当が下がる」と怒りの声が上がった。

中央本部は、①早期低額回答の春闘破壊②「新人事・賃金制度での処遇改善」を理由にした賃金抑制③「経営判断で増えた費用増」「営業利益減」を理由にした賃金抑制④ベースアップに職責を重視する姿勢⑤賃金カーブの課題に対する主張の対立との問題点を明確にし、組合員と議論してきた。会社回答に対する怒りの声は中央本部に24,000件も集約され、その声を受け中央本部は申20号緊急申し入れ交渉に臨んだ。

申20号緊急申し入れ交渉では、職場から集約された「本音の声」を会社に突きつけたが、会社は「最終回答で変わらない」と回答し頑なな姿勢を変えることはなかった。よって、団体交渉で①組合員・社員の奮闘と努力を経営幹部は受け止め考慮要素にする②制度改正とペアーは、性質は異なり別物である③その都度の団体交渉を経て決定する④制度改正は今後の費用を抑制するものではない⑤来年以降、制度改正による職務能力給の引き上げや各種手当等の引き上げと言うことは示さない⑥平均3,271円のペアーを今後の基準にしないことを職場のたたかいを背景に確認してきた。

2026JR総連春闘では、全地本と青年協議会で春闘集会を開催し、1,000名以上の組合員・未加入者を結集してきた。また、総対話行動やメッセージ行動など、各地本が独自のたたかいを創造することを通じて、制度改正を通じた賃金抑制という会社回答に「騙されない」組織をつくり出し、春闘期間中に青年層の組織拡大も実現するたたかいをつくり出すことができた。

組織一丸となって作り出してきた2026JR総連春闘交渉を、今後の地方のたたかいと組織化に繋げることの課題を全地本の意志とし、2027春闘を展望する統一闘争として全地本・青年協が声明を発売した。中央執行委員会は、要求の実現に至らず苦渋の判断であるが、職場のたたかいを基礎に申20号交渉までたたかい抜き、6点の確認事項と、2027春闘を展望した組織拡大のたたかいを組織一丸となって強化していくことを確認した上で、妥結判断とする。

職場では、未加入者や社友会から「回答が分からない」「知らない。忙しくて知る余裕もない」「賃金や春闘が分からない」等の感想が出ている一方で、社友会が「賃金が10%以上上がる」と会社回答を下支えしている現実も明らかになった。能力昇給平均は賃金の1%にも届かず物価上昇に賃金が追いつかない。生活を維持・向上させるためには、JR東労組に結集しペアーを勝ち取るしかないことを組合未加入者や社友会会員に訴えていかなくてはならない。

このような現実をつくり変えるため、6点の確認事項に基づき「賃金とは何か」など、労働者としての自覚を勝ち取り、JR東労組への結集をつくり出していく。全組合員で組織強化・拡大のたたかいを実践し、1万名組織の実現に向けてたたかいを前進させよう！

現在たたかいの最中である。バス東北本部・バス関東本部・ステーションサービス協議会の仲間との連帯を強化し、JR総連に結集する全ての仲間と最後まで共にたたかい抜く決意を申し述べ、中央執行委員会の見解とする。

2026年3月25日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会

奮闘する組合員・社員の努力に報いず  
生活を支える家族の努力にも報いず  
宮利優先・安全無視の経営姿勢を許さず  
団結して立ち向かおう！

# 本部見解をみんなで見合わせよう！